

## 「深井保健科学研究所セミナー」(2013年1月～2013年12月)

### ◆深井保健科学研究所第12回コロキウム

#### 超高齢社会における口腔保健

Oral health in aging society – collaboration and challenge

#### ■開催趣旨：

わが国の65歳以上の高齢者数は3,000万人を超え、世界にも例を見ない超高齢社会を経験しようとしている。高齢になれば、生活機能の低下と疾病罹患のリスクが高まることはさげられない。そのため、健康な長寿社会実現への方策という課題は、社会保障財源の観点からも大きい。

一方、口腔保健と全身との関係を示す疫学データが、今世紀以降、内外の研究者によって、急速に蓄積されるようになってきた。わが国においても、生活習慣病（NCDs）の予防に口腔保健の果たす役割が議論され、具体的なチャレンジが報告されるようになってきた。しかしながら、国民皆保険制度における歯科医療および口腔保健が、健康な長寿社会にどのように貢献できるのかという実証研究は少ない。

そこで、今回のコロキウムでは、健康長寿社会を支える歯科医療・口腔保健の可能性とそれを実現していくためにどのようなデータと研究成果を蓄積したらよいか、また、それらを健康政策と実践に活かしていくための具体的な vision について議論したい。

■主 催：深井保健科学研究所

■日 程：2013年8月10日（土）10時受付

■会 場：東京国際フォーラム ガラスホール棟6階 G602  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1 JR有楽町駅下車

#### ■プログラム：

10：00 受付開始

10：45 開会

開催主旨 深井穫博（深井保健科学研究所）

10：50 - 13：00

ヘルサイエンス・ヘルスケア最新トピックス （発表・討議時間1演題15分）

10：50 - 11：35

座長：遠藤眞美（九州歯科大学）

1. 某歯科医師会会員診療室で行っている介護予防の口腔機能向上事業  
遠藤眞美（九州歯科大学老年障害者歯科学分野）
2. 高齢者の生活自立を目指して－口腔機能維持・向上が果たすその役割について  
久保哲郎（久保歯科医院院長）
3. 機能的食品のガムを活用した、オーラルケアを考える

田中智子（江崎グリコ（株）健康科学研究所）

11：35－12：20

座長：吉野浩一（横浜銀行）

4. 絵本を利用した歯科診療

大野秀夫（おおの小児矯正歯科）

5. 再生した歯を移植・生着させるには、歯の移植の研究が活かされる

吉野浩一（横浜銀行）

6. 歯科補綴における第二評価項目づくりの検討－咀嚼機能回復・向上から体組成・代謝の改善へ－

武内博朗（武内歯科医院）

12：20－13：05

座長：恒石美登里（日本歯科総合研究機構）

7. 災害時の避難所等口腔保健アセスメントについて

北原 稔（神奈川県厚木保健福祉事務所）

8. 平成12年～平成22年（10年間）の外來歯科医療費推移による都道府県の類型化とその要因分析  
－概算医療費データベースより－

恒石美登里（日本歯科総合研究機構）

9. 都道府県の歯科保健予算からみた歯科保健推進体制の検討

田村光平（東京都葛飾区保健所）

13：05－14：30

シンポジウムⅠ 「超高齢社会における口腔保健と健康」

座長：神原正樹（大阪歯科大学）

話題提供

1. 深井穫博（深井保健科学研究所）：超高齢社会における歯科医療・口腔保健の役割を考える
2. 神原正樹（大阪歯科大学）：Vision 2025, Japanをどのように考えればよいのか
3. 花田信弘（鶴見大学歯学部）：口腔と全身の健康との関連に関する研究の展望

14：30－15：00

深井保健科学研究所運営報告

15：00－16：50

シンポジウムⅡ 「歯科医療・口腔保健と健康に関する調査およびデータ蓄積をどのように行っていくか」

座長：深井穫博（深井保健科学研究所）

主旨説明

深井穫博（深井保健科学研究所）

話題提供

1. 安藤雄一（国立保健医療科学院）：国の統計情報および歯科医院調査の現状と課題
2. 相田 潤（東北大学）：JAGES調査（Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究）とは
3. 岡本悦司（国立保健医療科学院）：ビッグデータを使いこなせ－ネット時代のデータ活用術

資 料

指定発言

内藤真理子（名古屋大学）：歯科医師を対象としたコホート調査（LEMONADE Study）

16：50

コロキウム2013提言

Policy Statement of FIHS Colloquium 2013 in Tokyo, Japan

17：00 閉会

◆FIHS Seminar（113<sup>th</sup>～123<sup>rd</sup>）：How to make an effective English  
Presentation of health science

113<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 12 January, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Koichi Yoshino, D.D.S., PhD. Opposing teeth loss of implant

Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD. Current issues in community oral health in Japan

114<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 16 February, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Koichi Yoshino, D.D.S., PhD. Opposing teeth loss of implant

Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD. Current issues in community oral health in Japan

115<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 16 March, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Koichi Yoshino, D.D.S., PhD. Opposing teeth loss of implant

Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD. Current issues in community oral health in Japan

116<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 20 April, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Koichi Yoshino, D.D.S., PhD. Opposing teeth loss of implant

Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD. Current issues in community oral health in Japan

117<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 16 May, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

118<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 8 June, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

119<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 6 July, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

120<sup>th</sup> FIHS Seminar

Date: 7 August, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

121<sup>st</sup> FIHS Seminar

Date: 7 September, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

122<sup>nd</sup> FIHS Seminar

Date: 12 October, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

123<sup>rd</sup> FIHS Seminar

Date: 14 December, 2013, 18:30-20:30

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

◆「歯科疫学研究会」定例セミナー（94回～104回）

第94回歯科疫学セミナー

日 時：2013年1月17日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

- 発表者：（1）石田智洋 「コトバ」原稿 痛みと性差について  
（2）岩崎理浩 CPIと未処置歯の関連について  
（3）高柳篤史 ブラッシングの男女差 ゲームと歯科疾患

第95回歯科疫学セミナー

日 時：2013年2月21日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

- 発表者：深井穂博、安藤雄一、高柳篤史、大山篤、恒石美登里、柳澤智仁、岩崎理浩、萩原宏  
（1）安藤雄一 歯科疾患実態調査について  
（2）深井穂博 ネパール喪失歯の順序について  
（3）岩崎理浩 H17実調 CPIと未処置歯との関連

第96回歯科疫学セミナー

日 時：2013年3月28日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

- 発表者：安藤雄一、石田智洋、岩崎、高柳篤史、深井穂博  
（1）岩崎理浩 H17実調 CPIと未処置歯の関連  
（2）安藤雄一 PMDC杉並区の80歳健康調査から義歯の状況（汚れやケアについて）

## 資 料

### 第97回歯科疫学セミナー

日 時：2013年4月11日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、恒石美登里、萩原宏、多田裕樹、岩崎理浩、石田智洋、柳澤智仁

- (1) 深井穫博 ネパール首都近郊部における学童の口腔保健行動と社会経済要因
- (2) 安藤雄一 80歳高齢者の義歯のケアに関する実態調査と専門的義歯清掃の効果に関する研究

### 第98回歯科疫学セミナー

日 時：2013年5月23日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、多田裕樹、田村光平、高柳篤史、石田智洋

- (1) 石田智洋 行動変容ステージモデルを用いた定期受診調査
- (2) 安藤雄一 歯科口腔保健の情報提供サイト サイト（作製中）の紹介、科学院クラウド
- (3) 深井穫博 Oral health status and physical condition of Japanese octogenarian with 20 or more teeth

### 第99回歯科疫学セミナー

日 時：2013年6月13日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：田村光平、大賀英史、安藤雄一、深井穫博、萩原宏

- (1) 田村光平 都道府県予算からみた歯科推進体制の検討
- (2) 大賀英史 歯科領域における行動科学的な課題と可能性

### 第100回歯科疫学セミナー

日 時：2013年7月18日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：(1) 石田智洋 ステージモデルを用いた歯科受診分析

- (2) 安藤雄一 咀嚼指導と肥満予防

### 第101回歯科疫学セミナー

日 時：2013年9月19日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：安藤雄一、田村光平、石田智洋、恒石美登里、高柳篤史、大山篤、深井穫博

- (1) 石田智洋 定期歯科受診における行動変容とその影響
- (2) 深井穫博 8020財団について

### 第102回歯科疫学セミナー

日 時：2013年10月17日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：高柳篤史、安藤雄一、深井穫博、瀧口徹、恒石美登里、田村光平、福井聡嗣、萩原宏、大賀英史、大山篤

- (1) 恒石美登里 在宅歯科医療ニーズ
- (2) 瀧口 徹 欠損値、異常値処理法不完全データをどう扱うか

### 第103回歯科疫学セミナー

日 時：2013年11月14日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井稜博、安藤雄一、高柳篤史、大山篤、田村光平、多田裕樹、岩崎理浩

- (1) 高柳篤史 RSSTと自覚症状との関連
- (2) 安藤雄一 行政での歯科保健担当者の情報入手に関する調査 業務に関する調査 (Web) 中間報告
- (3) 深井稜博 口腔保健と全身の健康との関係のまとめについて

第104回歯科疫学セミナー

日 時：2013年12月12日 (木) 午後7時から

会 場：深井保健科学研究所 (埼玉県三郷市彦成3-86)

発表者：安藤雄一、深井稜博、高柳篤史、大山篤、田村光平、萩原宏、柳澤智仁、石田智洋、福井聡嗣

- (1) 高柳篤史 フッ素含有歯磨剤のフッ化物濃度と予防効果
- (2) 安藤雄一 地域において展開された生活支援プログラムの検討

深井保健科学研究所 コロキウム2013提言  
長寿社会と口腔保健  
第12回コロキウム：超高齢社会における口腔保健  
(2013年8月10日，東京，日本)

長寿社会において、より健康な生活を過ごす上で口腔保健の果たす役割は大きい。特に、歯および口腔機能の保持は、健康社会を実現するための不可欠な要素のひとつである。口腔保健にみられる健康格差は正と国民皆保険制度における歯科医療提供体制の充実という観点から、以下の提言を行う。

1. 医療と地域保健の双方向性の取り組みを通して、歯科疾患予防(う蝕と歯周病)、およびこれらに起因する歯の喪失防止を促進する。
2. 口腔疾患と生活習慣病(NCDs)における共通リスクファクターへの対応を促進し、成人から高齢者までの連続した保健システムを構築するための働きかけを行う。
3. 健康寿命の延伸および要介護状態を引き起こす原因疾患の口腔保健関連要因に関する科学的根拠の蓄積を図る。
4. 健康長寿に貢献する歯科医療の効果に関する研究を推進する。
5. 健康高齢者が健康な生活を保つために、他分野と連携して支援する口腔保健システムの構築に取り組む。

Policy Statement of Fukai Institute of Health Science  
Oral health in an aging society  
“Oral health in an aging society-collaboration and innovation”  
Adopted at the 12<sup>th</sup> Fukai Institute of Health Science (FIHS) Colloquium,  
10 August 2013, Tokyo, Japan

In an aging society, oral health plays an increasingly important role in healthy living. In particular, tooth retention and maintenance of oral function are fundamental factors in achieving a healthy society. From the viewpoint of reducing oral health inequality and improving the provision of dental care under the universal health coverage system, we hereby propose the following goals for dental research, practice, and policy.

1. To promote effective prevention of dental caries, periodontal disease, and tooth loss through the integration of and interaction among dental care institutions and community health services.
2. To facilitate the establishment of a health care system which provides seamless assessment and service from the adult years through the elderly years by focusing our efforts particularly on reducing those risk factors which are common to both oral disease and non-communicable diseases.
3. To accumulate empirical evidence of oral health factors which may be related to prolonging life expectancy and the prevention of those diseases which most often result in dependency.
4. To advance research which investigates the effects of dental care on the process of healthy aging.
5. To work toward, in cooperation with various health professionals, the realization of an oral health care system which supports the elderly in living a healthy and independent life.